

日本鉄鋼協会記事

理 事 会

第3回理事会 開催日：5月24日。出席者：佐野会長
他 36 名。

会議事項

1. 委員長会議規程制定に関する件。
原案第4条の副会長を除くこととした他、内容を原案通り決定し、字句の修正は事務局に一任することとした。
2. 企画委員会規程制定に関する件。
規程内容は原案通り決定し、字句の修正は事務局に一任することとした。
3. 国内炭活用製鉄用コークス製造試験の研究完了報告および今後の試験について。
久田委員長報告 試験の概略説明があつた。残存設備の利用などにつきアンケートを取つたが大部分の回答が有効利用の希望がないというものであつた。委員会ですらに検討することになつた。
4. 東大試験高炉第17次試験計画
辻畑委員長報告 提出資料原案通り承認された。
6月日本鉄鋼連盟で決定後、実行に移すことになつた。
5. 日本学会諸材料研究連絡委員会委員推薦に関する件。
中村正久君（東京工業大学助教授）を推薦することに決定。

研 究 委 員 会

第3回委員会 開催日：5月24日。出席者：今井委員長
他 12 名。

会議事項

1. 第4回技術講座案承認
2. 鉄鋼材料研究の推進について
今井委員長より鉄鋼材料研究組織設置の提案ありさらに検討することに決定す。
3. 研究委員会のあり方について
昭和40年6月23日理事会決定の4項目
 - 1) 研究業務の企画推進
 - 2) 研究調整
 - 3) 講習、講演会
 - 4) 教育中①②④項目にも力を入れる
4. 研究委員の任期満了に伴う処置について
中立関係として河田和美(金材研)、五弓勇雄(東大)、三本木貢治(東北大)を加えてその他は再任を理事会に具申する。
5. 会長、専務理事からそれぞれ次のような意見が述べられた。

会 長：教育計画その他について他学会（電気、化学会etc）との討論会開催を提案さる。

専務理事：政府補助の研究に対する合理的研究体制の確立の必要性を強調

金材研の研究活動に対し強力なバックアップの必要性を強調

編 集 委 員 会

第3回委員会 開催日：5月20日。出席者：荒木委員長
他 15 名。

会議事項

1. 論文審査報告
報告件数 10件
掲載可 5件 内容修正のため著者返却 5件
2. 鉄と鋼第52年8号(8月号)掲載論文選定
論文4件、特別講演5件選定済み
3. 編集について
荒木委員長より次のような意見が出され、それについて委員の意見が述べられた。
 - 1) 現在の編集委員会では小委員会が増し、また査読など大変な負担となつている。また技術が細分化されてきたし、今後は基礎的分野にも力を注いでゆくので査読などを quick にできない問題が起これと思われる。そこで編集委員会を頭に置き、その下に実行委員会を置いたらどうか。
校閲委員を100人程度おけば、専門的に校閲できるし重複校閲も可能である。
 - 2) Overseas を今後年6回発行することになつた。名称は Transactions of The Iron and Steel Institute of Japan とした。

欧 文 誌 編 集 委 員 会

第2回委員会 開催日：5月27日。出席者：荒木委員長
他 17 名。

会議事項

1. 春季講演大会論文集（和文52-3, 4）、その他和文誌掲載論文から依頼論文を6件選定。
2. “Tetsu-to-Hagané Overseas” を6巻1号から“Transactions of the Iron and Steel Institute of Japan”と改題し、年間6号発行することに決定した。
3. 年間6号増刷するにあたり、6巻1号から5号までの掲載論文編成変え案が認められ、本は当座、従来の約100ページから約70ページのものとなる。
4. 会社工場紹介記事、カラー口絵を廃止して本文論文のカラー写真を入れる。

資 料 委 員 会

第30回委員会 開催日：5月20日。出席者：草川委員長
他 13 名。

会議事項

1. “資料室だより”案について
「鉄と鋼」5月号に第1回の資料室だよりが掲載されたがレイアウト、その他の点において問題があるように思われる。また今後どのようなものをピッ

クアップしていくかが問題であるとの意見があつた。

2. カタログカード化について

カード化はカタログ利用の立場から、カードを作成して利用者の便宜を測ることにある。まず実施するに当つて、“資料室だより”から反響を調べたり、アンケートを出してカード化作成を実施するか否かについて検討する。

3. U. D. C. については次回討論を行なう。

共同研究会

第1回運営委員会 開催日：5月24日。出席者：佐野会長他26名。

会議事項

製鉄部会、製鋼部会、圧延理論分科会、鋼板部会、条鋼部会、鋼管部会、特殊鋼部会、計測部会、品質管理部会、調査部会、新技術開発部会、鉄鋼分析部会、熱経済技術部会、および設備技術部会より活動状況の報告がされた。

このうち、新技術開発部会より今後の新研究題目として連続製鋼を取り上げることにしたい旨提案があつた。これに対し通産省より「従来補助金には応用研究、試作研究の2種類があつたが今年度より新たに大型プロジェクトに予算が認められた。鉄鋼も連続製鋼法をテーマに進めて行きたいので予算作成の資料として共同研究会でこのテーマを取り上げ検討されることを希望する」旨意見がでた。検討の結果新技術開発部会でこのテーマを取り上げることが承認された。

鋼板部会

厚板分科会

第21回分科会 開催日：5月11, 12日。出席者：芝崎部会長他56名。

会議事項

第1日目

共通議題“ロールに関する問題点について”の発表が各社より行なわれ、ロール原単位、保有数、管理方法、整備要員などにつき審議がなされた。自由議題としてはデスクレーン装置移設、ロールの耐スポーリング性、レベラに関する文献、原子炉用超厚板などが審議された。

第2日目

41年度事業計画アンケート結果を討議したが、小委員会を設置して十分検討をした上、今後の方針を決定することにした。

和歌山製鉄所見学会実施

コールドストリップ分科会

第3回分科会 開催日：5月19, 20日。出席者：吉田幹事他42名。

会議事項

第1日目

コールドストリップ工場剪断設備について参加した3社より発表が行なわれた後、広畑製鉄所の見学をした。

第2日目

ロールグラインダー設備、およびストリップの疵の名称について審議した。疵の名称統一については次回議題とすることにした。

条鋼部会

大形分科会

第4回分科会 開催日：5月16, 17日。出席者：中島主査他41名。

会議事項

1. 共通議題 ホットソーの現状と問題点、能力向上対策、鋸断能力、長さ公差および鋸断時のかえり鋸断機停止時間の短縮などの問題点が多い。
2. 製品疵の減少対策、疵別発生状況より発生原因を追跡、また材料疵と製品疵の関連についてなど種々の問題点があつた。
3. 成品寸法管理の現状について
今後の寸法、形状、管理の方向としては形状の精度の向上、曲りおよび反り発生の防止、などに問題点があつた。
4. その他自由議題
5. 特別講演 東京大学工学部建築科加藤助教授 演題「大形々鋼使用上の問題点」
今回はじめての試みであつたが好評であつたので次回も続けて行なうことになつた。
内容は大形々鋼の歴史から構造部材への適用および製造上の問題点、H形鋼のJIS化の問題点、最近の使用者の傾向、など多方面にわたり、有意義な講演であつた。

鋼管部会

第6回部会 開催日：5月13, 14日。出席者：原田部会長他79名。

会議事項

1. 共通議題

- (1) 非破壊検査設備の概要
- (2) 非破壊検査の信頼性の限度とその事例についての報告
- (3) 非破壊検査に関する規格の解説および文献紹介

2. 特別議題

- (1) 継目無鋼管分科会
マンネスマン関係はセンターホール形状の偏肉成績への影響および口元かぶれきずへの影響について実験結果が報告された。また押出関係はきずの種類とその原因、対策および押出工具について発表があつた。
- (2) 溶接鋼管分科会
各社の高周波溶接設備の概要および溶接部の品質と Heating Mechanism の関係についての実験結果が報告された。

鉄鋼分析部会

18第回部会 開催日：5月26日。出席者：後藤部会長代理他27名。

会議事項

1. 発光分光分科会その後の経過報告
2. 螢光X線分析分科会その後の経過報告

3. 鉄鋼化学分析分科会の経過報告
4. 鋼中非金属介在物分析小委員会その後の経過報告
5. 鉄鋼標準資料委員会その後の経過
6. ISO 鉄鉱石委員会分析専門委員会その後の経過報告

鋼中非金属介在物分析小委員会

第7回小委員会 開催日: 5月24日. 出席者: 前川小委員長他 11名.
会議事項

1. 共同実験結果について
キルド鋼ならびにリムド鋼中の非金属介在物のヨウ素メタノール法による分析共同実験を行ない、次の結論を得た。
(1) キルド鋼についてはほぼ精度のよい分析が可能であるが炭素0.2%以上、イオウ0.015%以上では問題が残り、アルミニウムが高い時にもAINの補正を行なうと負になることがある。
(2) リムド鋼についてはSiO₂, Al₂O₃, Cr₂O₃は比較的精度がよい。合計ではVF法の1/2~1/6程度の酸素量しか得られず、溶解温度を変えても効果は少ない。
2. 今後の方針
ひとまずリムド鋼についてまとめるため先に提供をうけた鉄鋼基礎共同研究会非金属介在物部会の八幡材Y5, 富士鉄材F4の追加提供をうける予定である。

螢光X線分科会

第9回分科会 開催日: 5月25日. 出席者: 川村主査他 32名.
会議事項

1. ステンレス鋼分析方法 (JIS 法) 近日公布
2. 共同実験アンケート集約および共同実験試料について
3. 鉄, 鋳鉄, 炭素鋼および低合金鋼の螢光X線分析共同実験推進案について協議し承認された。
7月20日から9月20日の間に実施予定
4. 鉱石, スラッグなどの粉体試料分析は各社の報告をうけてから、今後の方針を決める。

鉄鋼化学分析分科会

第1回分科会 開催日: 5月26日. 出席者: 武井主査他 28名.
会議事項

1. 先に工技院から審議を委託されたISO 推薦規格案鋼中Mn分析法 S分析法について賛成の投票をすることに決定の報告があつた。
2. 今後の運営の参考とするために現行JIS法などのアンケートを日本工業標準調査会鉄鋼化学分析専門委員会を通じて関係業界に行なうことになった。
3. 今後ISO規格と十分に関連をとりながらJIS法の見直しをする必要があり、このためISO/TC17/SC1に現在Oメンバーで参加しているのをPメンバーに変更することになった。

試験高炉委員会

第7回委員会 開催日: 5月10日. 出席者: 辻畑委員長他 18名.
会議事項

- 第17次操業計画案. 予算案の検討
第16次操業に引続き、送風量の限界を検討するため、7m³/minまで増風をはかる。また、熱間性状の影響を調査するため最後の1日はブラジル鉱石の高配合を行なう予定。

標準化委員会

機械試験方法分科会

第11回分科会 開催日: 5月17日. 出席者: 吉沢委員長他 5名.
会議事項

ISO事務局より日本側の意見の回答が求められていた“硬さ試験方法”について、あらかじめ委員に求めておいた意見に基づき検討し、回答案を作成して工業技術院へ報告した。

クリープ試験技術研究組合

第5回通常総会 開催日: 5月24日. 出席者: 組合員八幡製鉄(株)他9社
当研究組合における定例の第5回通常総会が八幡製鉄第一会議室において開催された。組合員10社が出席し9社が委任状により参加された。議長に太平金属工業(株)社長俵信次氏が異議なく選ばれ議長に就任し、下記事項の審議が行なわれ、全員の賛同を得て承認可決された。

記

会議の目的事項

- 第1号議案 昭和41年3月31日現在貸借対照表, 財産目録および40年度(自昭和40年4月1日至昭和41年3月31日)事業報告書損益計算書承認の件
第2号議案 昭和41年度事業計画および収支予算設定承認の件
第3号議案 昭和41年度費用の賦課および徴収の方法承認の件
第4号議案 役員の改選に関する件
第5号議案 組合事務所移転承認の件
第6号議案 昭和42年度以降の事業方針承認の件
第7号議案 組合員の脱退届承認の件
41年度役員氏名(敬称略)次のとおり。

理事 (15名)

池田 正 (八幡製鉄)	(新任)
桂 寛一郎 (日本鋼管)	(再任)
藤本 一郎 (川崎製鉄)	(〃)
小出 秋彦 (住友金属)	(〃)
浅田 長平 (神戸製鋼)	(〃)
松本 茂樹 (日本製鋼)	(新任)
出口喜勇爾 (日本特殊鋼)	(〃)
浅田 千秋 (大同製鋼)	(再任)

俵 信次 (太平金属) (ク)
 和田 重暢 (東京芝浦) (ク)
 三浦 倫義 (日立製作) (ク)
 田中 正三 (川崎重工) (新任)
 奥村 正彦 (三菱重工) (再任)
 中司 正夫 (三菱製鋼) (新任)
 名見耶 馨 (鉄鋼協会) (再任)

監事 (2名)

山本真之助 (日立金属) (新任)
 竹内 則次 (富士製鉄) (再任)

第12回理事会 開催日: 5月7日. 出席者: 俵専務理事他 11名.

会議事項

1. 研究組合の事業方針に関する件
2. 役員改選のため候補者推せんに関する件
3. 研究組合事務所の移転に関する件
4. 40年度決算報告に関する件
5. 41年度事業計画収支予算設定に関する件
6. 41年度費用の賦課および徴収の方法に関する件
7. 第5回通常総会および第13回(41-1回)理事会開催ならびに同付議事項に関する件

第13回理事会 開催日: 5月24日. 出席者: 俵理事他 8名.

会議事項

5月24日開催の第5回通常総会において選挙された新役員による第1回理事会が総会に引続いて開催され下記

事項の議決が行なわれた.

1. 理事長および専務理事選任の件
 指名推選の方法により従来どおり選任された.
 理事長 浅田長平
 専務理事 俵 信次
2. 運営委員長ならびに技術委員長委嘱の件
 全員異議なく、従来どおり次の両氏を委嘱することが決定された.
 運営委員長 俵 信次
 技術委員長 平 修二

運 営 委 員 会

第22回委員会 開催日: 5月7日. 出席者: 俵運営委員長他 15名.

会議事項

運営委員会としての意見の取りまとめを下記の議題について行ない、および次回の第12回(40-2回)理事会、第5回通常総会および第13回理事会開催および付議事項につき審議を行なった.

1. 研究組合の事業活動について
2. 41年度役員改選のための候補者推せんについて
3. 研究組合事務所の移転について
4. 40年度決算報告について
5. 41年度事業計画ならびに収支予算について
6. 41年度費用の賦課および徴収の方法について
7. その他
 組合員の脱退報告について

支 部 記 事

東北支部住所変更

東北支部事務所の住所が下記の通り変更になりましたのでお知らせいたします.

新住所 仙台市南六軒丁
 東北大学工学部金属材料工学科内
 日本鉄鋼協会東北支部

中国四国支部役員一部変更

本会中国四国支部では、死亡、転任などによる支部役員の後任を次の通り決定いたしました.

常務理事 藤田 春彦
 “ 岩宮 久
 “ 井川 博
 理 事 古賀 精華
 “ 山本 治男
 “ 森山 知義
 “ 竹本 国一

新 入 会 員 氏 名

(昭和41年4月1日~30日)

維持会員	土屋 正仁	〃	〃	広島 龍夫	〃	中技研
日本鉄鋼連盟 1口	小原 充	〃	室蘭	本間 道治	〃	小倉
正 会 員	吉田 正志	〃	〃	小川 清彦	〃	理研ピストンリング(株)研究所
石川 英毅	八幡製鉄(株)東研	生嶋 一丈	特殊製鋼(株)研究所	脇 脩	〃	〃
沢谷 精	〃	光富 庸夫	〃	小松 啓七	〃	住友電気工業(株)
吉村 浩	〃	堀越 弘彦	〃	前田 閑一	〃	〃
和田 耕一	〃	杉本 巖城	川崎製鉄(株)知多	金子 元彦	〃	山陽特殊製鋼(株)
小宮 良平	〃	吉井 裕	川崎製鉄(株)技研	木村吉太郎	〃	日本鋼管(株)鶴見
森瀬 兵治	〃	渡部 秀人	〃	杉本 公雄	〃	(株)神戸製鋼所
栖原 信夫	富士製鉄(株)広畑	川口 善行	住友金属工(株)和歌山			

山之内和明	(株)中山製鋼所	小谷 幸雄	苫小牧工業高等専門 学校	古川 武	〃
野村 修	日立造船(株)	沢入 操	群馬工業高等専門学校	八代 一司	〃
古川 了	日特金属工業(株)	四十谷吉則	少年工科学学校	佐藤 彰	東京大学大学院
黒岩 俊郎	アジア経済研究所	北田 昌邦	千葉工業大学	平岡 照祥	〃
三坂 克彦	古河電気工業(株)	学 生 会 員			〃
伊藤 敦	国光製鋼(株)	駒村 宏一	名古屋大学工学部	射場 毅	大阪大学工学部
村上 英二	東洋刃物(株)	西尾 浩明	〃	岡本 晋	〃
小林 俊郎	富士電機(株)中研	樋口 充蔵	〃	平田 靖彦	〃
長谷川啓治	(株)日立製作所	水上 義正	〃	戸崎 秀男	東北大学工学部
西山 政昭	愛知製鋼(株)	浅井 滋生	名古屋大学大学院	川崎 千歳	〃 大学院
福井 英彦	協和窯業(株)	井口 義章	〃	清野 隆	東京電機大学
川本 信	大阪府立大学	岡村 正義	〃	小林 正孝	千葉工業大学
石橋 保博	九州大学	市川 秀昭	早稲田大学理工学部	栗木 武男	名古屋市立大学大学院
戸沢 康寿	名古屋大学				外 国 会 員
					Walter R. Ruston (Belgium)

書 評

「鉄鋼迅速分析法統一付解説」

日本学術振興会編

日本学術振興会製鋼第 19 委員会第 1 分科会 (分析) では昭和 31 年, かねて同分科会で検討, 審議し, いわゆる「学振法」として決定した鉄鋼関係の分析法 131 をまとめ, 「鉄鋼迅速分析法統一付解説」として刊行したが, その後の約 10 年間にさらに約 2000 編の研究報告が提出され, 検討, 審議の未決定された分析法が 102 の多きに達したので今回続編として上記「鉄鋼迅速分析法統一付解説」が出版された。

内容は第 1 編鉄鋼分析では C, Si, P, Cu, Ni, Cr, Mo, V, Co, Al, Ti, As, Sn, Sb, Pb, Zr, B, Nb, Ta, Ca, Mg, Se, Be, 希土類元素, S, 第 2 編塩基性鋼滓分析では FeO, Fe₂O₃, 全鉄, Al₂O₃, CaO, MgO, MnO, P 塩基度測定, 第 3 編高炉滓分析では SiO₂, Al₂O₃, CaO, MgO, MnO, TiO₂, S, 第 4 編フェロアロイ分析では Fe-Mn 中の Mn, Fe-Ni 中の Ni, 金属 Ni および Fe-Ni 中の Co, Fe-W 中の W, Fe-Mo 中の Mo, 第 5 編製鉄, 製鋼原料分析では鉄鉱石中の As, Sn, 焼結鉱中の As, 砂鉄中の V, マンガン鉱中の Mn, 鉱石類中の Si, 第 6 編鉄鋼中のガス, 非金属介在物分析では N, AlN, 第 7 編試料採取法では酸素定量用の真空採取法, ヒシヤク汲出鑄型内鎮静法, ポンプ法, ヒシヤク内鎮静スポイト吸上法, ヒシヤク内鎮静鑄込法, 水素定量用の真空採取法, 汲出鑄込法, スポイト吸上法となつている。

これらの成分の分析に用いられた方法は吸光光度法が主体となつているが, その他キレート滴定法を含む容量法, 重量法, 炎光法, ポーラログラフ法などがある。そしてこれらの分析法は委員会独自で開発した独創になるもの, 内外の文献から鉄鋼分析に適するように改良したものなどからなりたち, 最新の理論, 技術に基礎をおいているものが多く, 目新しく清新な感じを受ける。

しかも, これらの方法は単に新奇をてらうだけのものではなく, 委員会の検討, 審議を経て決定された評価済みの完成されたもので, 直ちに現場に適用して良好な成果が得られるのが特長である。

なお, 本書の標題で「迅速分析法」とうたつてはいるが, 内容は必ずしも時間的な早さのみに重点を置いたものばかりではない。精度, 確度の改善, 微量分析, など分析関係者の当面するすべての問題点を解決しようとする努力がなされ, それに重点を置いた方法も多い。このことはこの「学振法」が「JIS法」の母体となつていることの多い事実からもうかがうことができる。

さらに本書において, ガス分析のさい問題となつていた試料の採取法が, 関係委員の努力と長期間の検討によつて一応解決し, 前記第 7 編に挙げられた方法が決定, 収録し得たことも, 特長のひとつと数えることができる。

鉄鋼関係の分析に従事する技術者, 作業員の必携の参考書といえると思う。(若松茂雄)

(A 5 版, 600 ページ, 定価 2500 円, 丸善(1966))